

2018年

6月号 おおきくなあれ



No. 219

岐阜市芥見大般若1丁目84番地 河村病院 病児保育園クララ

HPアドレス <http://www.kawamura-medical.or.jp>



6月は「歯と口の健康習慣」「時の記念日」「父の日」「梅雨入り」など様々な行事や節目を迎え、また、早いもので21日は夏至です。クララの子どもたちとも、そんな6月の季節を、楽しく感じられるような工作や、絵本の読み聞かせをしながら、病気の回復に努めたいと思っています。先月は、利用人数はさほど多くありませんでしたが、咽頭結膜熱、おたふく風邪、インフルエンザ、ヒトメタニューモウイルスなど、様々な感染症のお子さんが利用されました。つこいインフルエンザにはまだまだ要注意ですね(´▽`)/。梅雨の時期といっても、すでに熱中症対策については文部科学省から「熱中症事故の防止について」の通達が来ております。水分を定期的にとり、蒸し暑いこの時期を元気に乗り越え、梅雨の晴れ間のお日様のように、どの子どももきらきら大きくなあれ!!

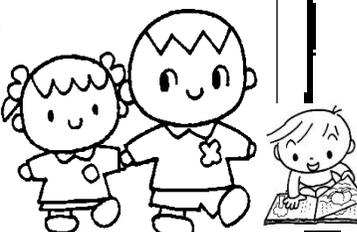


着替えを多めに持たせてください

子どもは汗かきさん。午睡の後は、皆、汗びっしょりです。下着やTシャツなど、多めに準備をお願いします。

ほのぼの日記

7人の子が来所された日のこと。1歳児さんがほとんどだったので、どの子ども泣いたり抱っこしてほしがったり…と、お部屋は朝から賑やかな状態。そんな中、来所したK君(小学3年生)も、入室するなり、「わぁ～、今日は赤ちゃんばかりや～」とびっくり。赤ちゃんばかりは嫌なのかな?…と、K君の様子を気にした保育士が、小学生らしい遊びの準備をして声をかけようとしたら、あらあらK君、泣いている赤ちゃんの布団の横にべたんと座り込み、顔をくっつけてヨシヨシしたり、ほっぺやおでこをなぜなぜしたり…赤ちゃんが嫌どころか一生懸命あやしてくれているではありませんか。赤ちゃんの方もなぜか泣き止み、落ち着いてお布団で冷えてくれ、逆に保育士が顔を覗き込むと、エ～ん(´▽`)と泣いちゃう始末。赤ちゃんもお兄ちゃんが気に入ったようです。保育士の面目丸つぶれですが(笑)、K君のおかげで助かりました。とはいえ、K君自身も病気なのですから、休憩タイムを設け、布団でゆっくり横になってもらおうとしたのですが、ちょっとたつと、すぐに赤ちゃんのそばに行ってしまうK君。赤ちゃんに触れ合っているほうが落ち着くのかな?優しい気持ち、伝わってよかったね!…将来はぜひ、病児保育士専門士に!(^^)ゞ



山田Dr.のお話ーポリオワクチン4回目の接種をお忘れなく!

ポリオ(急性灰白髄炎・小児麻痺)は、感染しても無症状で経過する不顕性感染が殆どですが、増殖したウイルスが脊髄の一部に入り込み運動神経に感染すると、手や足に麻痺が現れ、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。日本では昭和35年に大流行し、翌年、経口生ワクチンが輸入され鎮静化、昭和55年の1例を最後に、以降新たな報告例は聞かれなくなりました。しかし、海外には流行地域があり、ワクチンを受けず免疫を持たない人が増えれば、再び流行する可能性があります。平成24年には、経口生ワクチンに代わって不活化ワクチンの皮下注射が定期接種として導入されました。同年11月からは3種混合ワクチンに不活化ポリオワクチンを混合した4種混合ワクチン



も導入。初回接種3回、追加摂取1回の計4回で高い免疫を獲得することができます。ワクチンの移行期に接種時期が重なった子の中には4回の接種をまだ完了していない子がいます。7歳半が上限です。移行期に生まれた子は接種期限が差し迫っています。母子手帳等で必ずご確認をお願いします。

6月4～10日は、「歯と口の健康週間」です。虫歯予防のためには、歯磨きの習慣が大切です。特に、乳歯は虫歯になりやすく、進行も早いといわれています。子どもたち自身で意識して、朝、食後、就寝前の歯磨き習慣がつくように声をかけてあげてください。仕上げ磨きをしてあげると、保護者の方とのスキンシップにもなり、子どもたちにもうれしい時間です。上手に磨けたときは、カレンダーにシールを貼っても楽しいですね。ちなみに今年の標語は「のぼそうよ健康寿命はみがきで」だそうですよ。



楽しい絵本は

読み継がれていきます…

『カラスのパン屋さん』『だるまちゃんとてんぐちゃん』などで知られる、絵本作家で児童文化研究家のかこさとし(加古里子)さんが、先月20日、92歳で亡くなりました。親から読み聞かせしてもらった子どもが大人になり、自分の子に同じ絵本を読み聞かせる…そんな世代を超えて愛されているかこさとしさんの作品は、保育園、幼稚園でも大人気。クララでも、何度、「先生読んで～」とせがまれたことでしょう。カラスのパン屋さんは結構長いお話ですが、どの子どもじっと聴き入ってくれます。80種類近くの楽しいパンが見開きの紙面いっぱいに出てくるページなどは、指を差したり、好きなパンを言い合ったり、自分だったらどんなパンを作ろうかなと想像したり…子どもたちの心をつかんで離しません。かにパン、うさぎパンなど可愛いパンはもちろんのこと、テレビパン、パイオリンパン、電話パンなど、どうやって作るんだろう?ってパンや、なんでこのチョイス?って突っ込みたくなるような面白パンもたくさんあり、このページだけでもずーっと遊べちゃうんです。生前、加古先生は、作品への思いを「大人に流されず自分自身で考える力を子どもに養ってほしい」と語っていたそうです。子どもと会話がたくさんできそうなページが多いのも、先生のそんな願いからだったのかもしれないね。お布団の中でも楽しめる素敵な絵本…これからもたくさん読んであげたいです。

